え

哲

〇インコースめがけ夜涼のスト

〇継接ぎの心模様や南風吹く

産卵の後の空腹鯰かな

向日葵の背の一尺が並びけり

帆柱の物見に独り南吹く

鰻鮨食めば炙りの匂ひあり

文 子

守宮出で今年も来たと一人言ゃもりい

志津子

つゆあけてうでまくりあげうりあるく

つゆさい中のこった品でゆうげはな

つゆさなかめんきょへんのうカッパきて

時鳥子守歌にし朝寝する

紫陽花や友は可愛いい嘘をつく

味元

昭次

作品

農

子

鰻飯旨さを知らず母は逝きワ₠ਞッパ

咲き時を自ら決めて蓮ひらく

自転車で稲穂見つけペダル止め

富 子

青空に手を挙ぐクレーン大南風

図書館で鯰の研究する少

女

若鮎が飛ぶ梅雨晴の光へと

千 代

【開催日時】

★次回市民句会

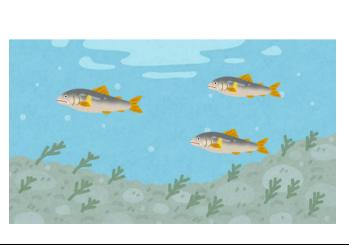
令和七年七月二十三日(水)

午後一時十五分~午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階

どなたでも自由にご参加いただけます



○法螺貝吹く郵便屋さん南風

〇大鯰盥の中で薄笑い

背に蛍男は家を尋ねくる

○草刈りの頬へ背へと南風

焼鮎の残るは背骨漢の皿

「古古古米」 光る早苗のみどり かな

江

〇シャンプーの匂い流るる梅雨の路地

★○黒南風の海を汽笛の重低音

交替に竿持つ姉妹鮎の川

ワゴン車の運ぶ献体南風

○評判の鰻屋店主いごっそう

〇守宮出た蛇出た南風吹いた

子  $(\pm)$ 

○南風受けてビーチバレー

の若い足

(岡)

逝く友と施設の友よ著莪の雨 宙に舞ふ竿さばき美し鮎の

出し抜けにとび出ごきぶり難のがれ

蒼天に泰山木の花香る

草むらに続く足跡鮎解禁

花

綾

子

〇絵はがきにゆったり乗ってきた鯰

〇いんぎんに答弁してる鯰のヒゲ 呟きを大事にして梅雨最中

〇大南風貝殻海を語りだす

境内は海の中なり夏木立

シャッターの開き線香の香梅雨最中